

フェロモン利用によるダイズのアサヒヨトウの防除について (第1報)

宮原和夫・御厨初子  
(佐賀県農業試験場)

昭和54年度にフェロモンを利用して大豆のアサヒヨトウの防除試験を行なったので、成績について報告する。

この試験は、農業技術研究所、九州農試環境第一部の御指導と、九州病害虫防除推進協議会の御援助を頂いた。

試験方法

佐賀県佐賀郡川副町南川副干拓の水田の転作大豆が約36ha栽培されているほ場を中心に試験を行なった。ほ場へのフェロモントラップの設置は、大豆とその周辺の水

第1表 試験区と対照区のアサヒヨトウの生息数消長

区別	7月		8月		9月		10月	
	30日	5日	9日	15日	20日	24日	30日	
試験区	0.0	0.3	0.0	0.0	17.9	11.0	26.0	
対照区	0.0	0.0	0.0	0.0	28.5	36.0	28.0	

区別	9月		10月		11月	
	4日	10日	14日	19日	25日	10月 1日
試験区	11.3	51.0	20.3	30.9	142.0	19.0
対照区	107.5	42.0	47.5	158.5	—	118.5

(100株平均)

稲のほ場等に1ha当たり1個ずつ総計206個を6月20日に設置した。アサヒヨトウのフェロモントラップによる捕虫と大豆への加害状況について、5日ごとに調査した。また農試内の大豆試験ほ場を対照区として試験区と同様に調査した。

成績および考察

6月20日から10月25日までの間のフェロモントラップごとの捕虫総数と、捕虫のなかった半旬数は第1図のとおりであった。

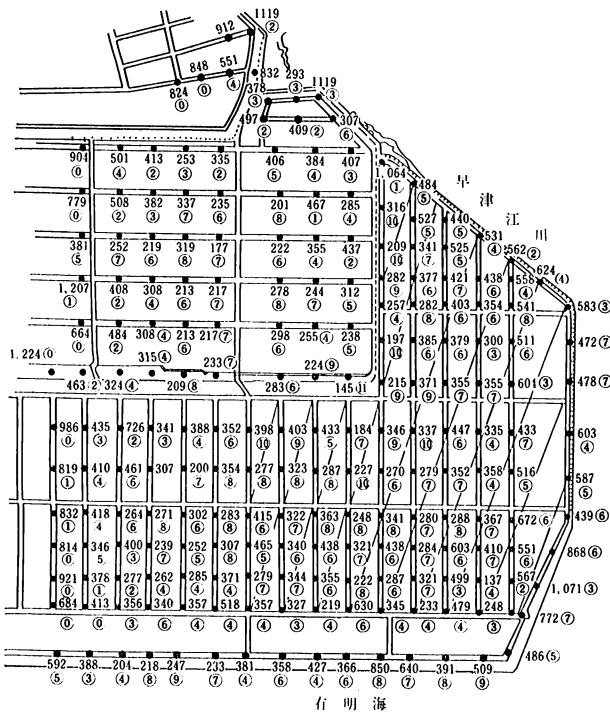
1. トラップによるアサヒヨトウの捕虫状況

試験区のなかで、最外郭に設置したトラップの捕虫総数が最も多く、捕虫のなかった半旬数は最も少なかった。この傾向は外郭から1~2列位まででその内側では中心部に至るまで捕虫総数は差が認められなかった。このように最外郭のトラップに捕虫が多いことは試験区外から飛来侵入するアサヒヨトウを、最外郭のトラップで捕虫するためであって、完全ではないが侵入阻止効果が期待出来るものと思われる。

2. 大豆のアサヒヨトウに対するフェロモントラップの防除効果

防除効果について試験区と対照区のアサヒヨトウの100株当たりの生息数について見たのが第1表である。

試験区のアサヒヨトウの生息数は対照区に比較して少ない。特に発生初期において少なく、防除効果がみとめられた。



数字は捕虫総数 円の中の数字は捕虫されなかった半旬数 斜線は大豆ほ場

第1図 フェロモントラップ毎のアサヒヨトウの誘殺総数とアサヒヨトウが捕虫されなかった半旬数